

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

9月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 報告2件（前月比2.0、前年同月比―）で、7月から1～2件の少数で推移しています。

小児科定点

（全体傾向）

報告数3,944件（前月比 1.49, 前年同月比 1.19）で、9月は増加に転じました。感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、手足口病、流行性耳下腺炎の増加が原因です。伝染性紅斑、百日咳、ヘルパンギーナを除く全ての疾患で前月比を上回っています。その中でも水痘の倍増と流行性耳下腺炎の持続的な増加が目立ちました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告件数392件（前月比2.4、前年同月比2.1）でした。8月に早い立ち上がりで注目されましたが、9月も引き続き増加傾向を認め、今後の動向に注意が必要です。菊池、宇城地区からの報告が多いようです。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数94件（前月比1.7、前年同月比2.2）でした。緩やかな漸減傾向を示していましたが、9月は増加に転じました。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数221件（前月比1.3、前年同月比1.2）でした。6月をピークに8月は4分の1まで減少しましたが、9月は増加に転じました。例年の推移ではこれから増加していくものと予想されます。宇城地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,643件（前月比1.7、前年同月比1.4）でした。3月から夏季に向けて減少傾向を認めていましたが、9月は増加に転じました。例年の推移ではこれから増加していくものと予想されます。
5. 水痘 : 報告数94件（前月比2.0、前年同月比4.7）でした。1月から毎月40～50台の報告でほぼ横ばい状態でしたが、9月は8月の48件から倍増しています。1歳以上のワクチン未接種児に対する接種の徹底が望まれます。
6. 手足口病 : 報告数262件（前月比2.6、前年同月比0.4）でした。今年最も多い件数で、例年夏季にピークを認めますが今年は傾向が異なり全国的な傾向でもあるようです。宇城地区からの報告が多いようです。
7. 伝染性紅斑 : 報告数15件（前月比0.5、前年同月比0.1）でした。1月の453件から減少の一途をたどっています。
8. 突発性発疹 : 報告数209件（前月比1.4、前年同月比1.2）でした。前月より増加していますが、例年並みの増減と考えられます。
9. 百日咳 : 報告数0件（前月比―、前年同月比―）でした。
10. ヘルパンギーナ : 報告数152件（前月比0.6、前年同月比0.7）でした。7月をピークに減少傾向が続いており、例年並みの推移を示しています。その中で天草からの報告が突出していました。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数570件（前月比1.2、前年同月比4.0）でした。例年と比べると1月からかなり多い状態で推移していますが、8月、9月はさらに増加傾向が続いており注目していく必要があります。全国的な傾向でもあるようです。八代、菊池地区からの

報告が多いようです。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数 77 件(前月比 2.5、前年同月 0.3)と 4 月から減少が続いていましたところ、今月は先月よりも倍増しています。今後の発症状況に注意が必要です。地区別では熊本 54 件に次ぎ、有明から 19 件と多数報告されています。その他、菊池 3 件、天草 1 件の報告です。年齢別発症では先月同様 20～49 歳にピークがありますが、60 歳以上にも大目の発症がみられ、今後注意が必要と思われる。乳幼児層も引き続き保育所等における感染に注意が必要です。

STD 定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症： 報告数 59 件（前月比 1.0、前年同月比 1.7）で、前月比は 1 件多く、前年同月比も増加しています。男女別は、女性に 34 件と多く見られています。年齢別は、男性では 20～29 歳に 15 件と多く、女性は 20～29 歳に 21 件と多く見られています。地区別は、熊本が 47 件と圧倒的に多く、次いで八代、有明に各 4 件、宇城 2 件、菊池、御船に各 1 件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数 16 件（前月比 0.8、前年同月比 0.9）で前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、女性に 10 件と多く見られています。年齢別は、男性は 30～59 歳に、女性は 15～70 歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が 9 件と多く、次いで八代 4 件、菊池 2 件、御船に 1 件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数 9 件（前月比 1.0、前年同月比 1.8）で、前月比は同数、前年同月比は増加しています。男女別は、男性に 7 件と多く見られました。年齢別は、男性は 20～54 歳に、女性は 20～29 歳に見られました。地区別は、熊本 7 件、宇城に 2 件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数 27 件（前月比 1.5、前年同月比 1.6）で前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、男性に 21 件と圧倒的に多く見られました。年齢別は、男性は 25～29 歳に 6 件と多く、女性は 15～24 歳に見られました。地区別は、熊本 24 件と多く、菊池、有明、宇城に各 1 件でした。

基幹定点

（月報分）

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数 19 件（前月比 1.5、前年同月比 1.4）でした。4 歳以下にはなく、14 件（74%）が 70 歳以上でした。山鹿、水俣、人吉が多く見られます。全体の累積としては昨年と同程度の発生です。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数 6 件（前月比 1.0、前年同月比 2.0）でした。全体の累積としては昨年と同程度の発生です。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告数1件（前月比 +1、前年同月比 +1）でした。天草からの報告です。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎： 報告数1件（前月比 1.0、前年同月 +1）でした。60歳台、熊本からの報告です。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数19件（前月比 2.7、前年同月比 2.1）でした。4歳以下が11件で58%を占めます。1件を除き熊本からの報告です。増加しており要注意です。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数54件（前月比 1.2、前年同月比 2.0）でした。依然として高い値で推移し要注意です。水俣、熊本から多く報告されています。2歳以下が52件、96%を占めます。
4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月 ±0、前年同月 ±0）でした。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数2件（前月より +2、前年同月 +2）でした。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした	
2類感染症	： 結核	34件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	3件
4類感染症	： E型肝炎	1件
	日本紅斑熱	4件
	レジオネラ症	5件
5類感染症	： アメーバ赤痢	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	5件
	後天性免疫不全症候群	2件
	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
	水痘（入院例）	1件
	梅毒	3件